

四谷の

千枚田だより



第167号



第八回中部環境先進五市サミット トコ多治見

七月七日、多治見市役所駅北庁舎四階大ホールを会場に環境サミットが開催され、保存会・環境審議委員の立場として参加した。

この会議の趣旨は、環境首都コンテスト全国ネットワーク(現・環境首都創造ネットワーク)主催の「日本の環境首都コンテスト」に参加していた中部地方の五市(T:多治見市・A:安城市・S:新城市・K:掛川市・I:飯田市の頭文字をとつて「TASKEI」サミットと称している)で構成、平成二十二年より毎年開催している。

今年のテーマは「生物多様性が支える私たちの生活〜やってきたことと、これからやること〜」と題して横井洋文氏の基調講演があった。横井氏は多治見市環境審議委員、たじみの自然誌など生物に関わる執筆も多く、(舜)にとつてはどこか似通った感じで興味深く拝聴した。パネルディスカッションは日本福祉大



学国際福祉開発学部教授千頭 聡氏をコーディネーターに五市の首長さんがそれぞれやってきたこと、これからやることをテーマに発表した。新城市長は市の取り組みとして鳳来寺山自然科学博物館を環境教育の拠点としての位置づけ、新城市の自然誌(全三巻)の発行、野外学習会や湿原の保全活動などをチョット自慢げにPRをなされた。新城市からは自然環境、むらぶくりなどに活動する十名がサミット・意見交換会に参加した。

懐かしい記事

連谷小学校閉校記念誌編纂に携わり学校・地域、社会の出来事等を年表に纏め、好評を得た。もう少しチャンとしたものを纏めたく古い資料を紐解いていたところ、四十四年前の昭和四十八年九月号「ほうらい町報」に「びいひつ」として身平橋の甚六会が紹介されていた。

甚六会
わたしの奉職する学区に、戸数三十二戸の集落があり、長男で組織する「甚六会」なる集団がある。発足は昭和四十四年、会員は子もち十一名、子なし三名の計十四名である。十数年前よりはじまったへき地の過疎の波は、ひしひしと押寄せ、若者は都市へ勤務先を求めて故郷をすてて去って行った。独身時代は都市での生活は魅力のあるものであるうが、親となれば、住居、物価、公害、交通事故、保育園等々、いろいろな悩みが起きてくる。

会員のひとりと言う。「山紫水明、家、田畑、学校、保育園は近くにあり、事業所も近くにでき、道路も整備され、通勤も容易になったので帰ってきた。」と。Uターンの要素はいろいろあるうが、生活の条件が良くなってきたことはまことによこばしい。甚六会は毎月一回、会員の家で輪番に会合を持つ、その時の

情勢によって話題はいろいろあるが、無意味な会合にならないよう会員ひとりひとりが真剣に話し合う。

この会の最も大きな事業は、子ども遊園地づくりであろう。子どもをあわせを願って、四十八年二月、お宮の跡を利用して、町の補助金と会員の拠出金、労力奉仕によって、ブランコ、シーソー、鉄棒、つり輪、砂場をもつ立派な「子ども遊園地」をつくりあげたことだ。安全な子どもの遊び場程、子どもをもつ親にとって痛切に必要なものはなからう。

また時には日曜を利用して家族づれで社会見学に出かける。家族の和、会員の共通理解も大切なものである。過ぐる日、足助町の恩内蔵連集落を会員が訪問した。この集落は戸数二十戸、「長男は外へ出ず」の集落である。長男が外へ出なくての生活設計はどうなっているだろうか。その問題を探究するための訪問であった。

現在集落出身の長男で都市で生活している者で、「帰ったら甚六会の会員にして欲しい」との申し込みをする者もあり、会員をよろこばしている。

甚六会により一層の活動を祈念するとともに、郷土を思う会員各位に敬意を表したい。

連谷小学校長 新美良文

千枚田での学習

六月二十六日に五年生は四谷の千枚田へ出かけ、自然、歴史などを学ぶ時間を設けました。講師は米作りでお世話になっていている千枚田保存会の小山舜二さんです。



千枚田には数多くの生き物がい
ます。今日も、オタマジャクシ、ド
ジョウ、タニシ、イモリなど、子ど
もたちは目を輝かせて見ていまし
た。これらの生き物を守り育てる活
動、イノシシやシカから稲を守る活

動など、たくさんのお話を伺うこと
ができました。

また、子どもたちがずっと疑問に
思っていた「今、千枚田は何枚田ん
ぼがあるのか」についても聞くこと
ができました。

これまでより、少し視野を広げて
千枚田を見る目を持つことができ
た時間でした。

市立鳳来寺小学校HPより
こども農学校自然観察会



J A 愛知東が一年間の農業体験
を通じて、「こども達に「食」と「農」
の大切さを教える」さあ！みんな
で一緒に、ふるさと奥三河の大自然
の中へ飛び出そう！！をテーマ
に毎年六十名を定員に募集、超人気
の実践活動を行っている。

七月一日、その一環として「千枚
田に棲む生きもの観察会」が農協か
ら「きわめびと」の委嘱を受けた
(舜)が講師として開かれた。J A 愛
知東管内から受講生として参加し
たこども達は「生きものいっぱい、
日本一」に嬉々として学び、遊んだ。
中でも作手のこども達は自然界の
寵児であるかの如く、素晴らしい観
察眼を発揮、たじたじであった。

案内板
保存会は平成二十九年度地域活
動交付金事業で鳳来北西部自治区



管内の「見どころいっぱい」の立看
板を千枚田入口に設置した。訪れる
人々は千枚田に魅了され、さて、次
は何処へ足を延そうか・・・という時
に大変重宝しているようだ。

連谷明朗クラブ研修旅行

七月二日、会員二十一名は日帰り
で三河温泉海遊亭(西尾市)に出か
けた。冒頭、丸山悼志会長は、今日
は昔の農休みにあたる。今ではひと
月も前に田植えも終わっている。今
日は百姓の農休みでなく、世知辛い
世の中に一日も多く長生き出来る
ように「脳休み」を楽しんでいただ
きたい。と、挨拶があった。

海遊亭では浪花劇団近江新之介の
演劇や歌謡ショーを観劇した。

ホテル

六年前から千枚田にホテルを舞
わそうと、餌になるカワニナを合戸
川で採取、根気よく続けたところ、
今年はいつになく舞ってくれた。千
枚田で見るホテルは情緒豊かだと
遠方からもチラホラ訪れる。

行 平成二十九年七月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二